

2022年6月23日

熊本県知事 蒲島郁夫様

子守唄の里・五木を育む清流川辺川を守る県民の会

代表 中島 康

〒860-0073 熊本市西区島崎 4-5-13

携帯 090-2505-3880

清流球磨川・川辺川を未来に手渡す流域郡市民の会

共同代表 岐部 明廣

美しい球磨川を守る市民の会 代表 出水 晃

流水型ダムと五木村の振興政策を切り離すことを求める申し入れ書

梅雨の候、貴職におかれまして、益々、ご清祥のこととお喜び申し上げます。
また日頃より、熊本県の地域振興にご尽力いただき、感謝申し上げます。

このことにつきまして、先の6月5日に貴職は五木村において説明会を開催され、新たな振興策を提示されました。配布資料のタイトルに「流水型ダムを前提とした新たな五木村の振興に係る村民説明会」とありました。流水型ダム建設に同意しなければ新たな振興はしないという熊本県の姿勢に、驚きを感じます。

報道によると、会場の村民からは「これ以上振り回されたくない。ダムを造るかどうかは村民だけで決めさせてほしい」「現在の村づくりが覆る」「村議会は流水型ダムに同意していない。一方的に進めてほしくない」と悲痛な声が相次ぎました。

2008年9月、蒲島知事は「現在の民意はダムによらない治水を追求し、球磨川を守ること」と明言し、五木村は県が拠出した10億円の基金を活用し、川辺川沿いの水没予定地に宿泊施設を造るなど清流を生かした取り組みを重ねてきました。

私たちは流水型ダムを生かした観光振興など全く理解できません。ダム見学ツアー、プロジェクションマッピング、ボルダリング、ダムを生かした景観づくり、自然を生かしたイルミネーションに、どれだけの人が集まるのでしょうか。持続可能な観光となり得るのでしょうか。

球磨川においては過去に荒瀬ダムをつくる時、「ダムができれば観光地になる」と説明され、旅館や遊覧船が設置されましたが、その後数年で破綻し廃業したと聞いています。普段は水をためず、洪水後は流木や泥まみれになる水没地が観光地となり得るのでしょうか。

五木村の振興と流水型ダムをセットにすることは許せません。「新たな五木村振興計画の4つの方向性のうち、「①流水型ダムを生かした新たな振興」を除いた3つ(②生涯にわたり住み続けられる医療・福祉・教育の推進、③豊かな恵みを生かした持続可能な産業と雇用の場の創設、④新たな時代を見据えた安全・安心を確保する生活基盤の整備)は、流水型ダム建設とは全く関係がない振興策です。村の人口が激減している状況に対しては、地域振興政策が必要とされていることは当然です。

また、五木村長も「流水型ダムに同意したことは一度もない」と明言されました。これ以上、振興政策と流水型ダムをセットにして「不退転の決意」を押しつけるべきではありません。

現在策定中の球磨川水系の河川整備計画は、流域の民意がどう反映されるかも含め、先行きははっきりしません。公聴会においても、ダムに反対し疑問を述べた公述人が33人中25人(75%)いたのですから、そのことにも配慮すべきです。また、報道機関や民間団体が行った豪雨被災者への聞き取り調査の結果を見ても、流水型ダム建設を求める声は他の治水対策を求める声と比べて非常に少ないことがわかります。河川法においても、住民の声を聞いて、計画を策定することが求められています。

私たちは、流水型ダムも想定以上の洪水では満水となり洪水調節できなくなる、洪水時に大量に流れる流木で流水型ダムの穴がふさがれば洪水調節できなくなる、ダムにたよる治水は危険であるとして、河川整備計画から流水型ダムを削除するよう主張しています。

五木の人たちがダム計画の行方をしっかり見極め、村ぐるみで最善の道を探る時間と機会が最優先されるべきです。熊本県が今努めるべきは、ダム計画に翻弄され続け、また不安を募らせている村民に寄り添う心配りです。地元の声を丁寧に拾い上げる作業は欠かせません。ダム建設への同意と振興策をセットに論ずるのはあまりにも乱暴です。

以上の理由により、流水型ダムと五木村の振興政策は切り離すよう、強く申し入れます。

以上